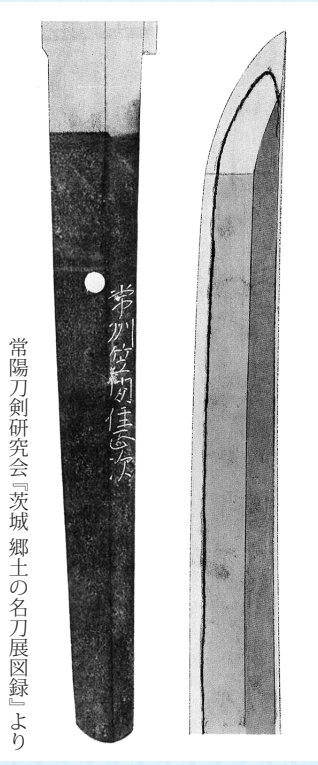


城里町の文化財さんぽ(三九)

町指定文化財(工芸品)

「刀剣(常州笠間住正次)」

指定年月日/昭和四九年四月二〇日
所在地/城里町粟 管理・所有者/個人



常陽刀剣研究会「茨城郷土の名刀展図録」より

町指定文化財「刀剣(常州笠間住正次)」は、笠間藩(牧野家)の御抱鍛冶であった保坂正次が鍛えた日本刀です。刀身は、刃長七三・二センチメートル、反り一・七センチメートルの鑄造りで、堂々とした姿をしています。地金は板目肌で、細かく鍛えられ明るく輝いています。刃文は締まった細直刃で冴え、帽子(鋒の刃文)は品良く小丸に返りまです。中心(柄に入る部分)には、目釘穴が一個穿たれ、「常州笠間住正次」と銘が刻まれています。

保坂正次は、本名を武八郎といいますが、笠間藩領田上村(現在の笠間市福原田上)の野鍛冶保坂源衛門の娘いちと智源右衛門の次男として生まれ、分家して鍛冶業を営みました。鍛冶の技術は、叔父の高木正行(笠間藩御抱鍛冶)に学んだとされ、直刃を得意としました。正次は、幕末から明治初年まで作刀し、明治二二(一八八九)年五月一六日に七二歳で没しています。

正次には、次秀と芳造という二人の息子がいました。長男の次秀は父と共に明治初年まで作刀しており、作風も父正次に似て堅実なものです。次男芳造は、天折したようで、作品を見ることはありません。

解説文/町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局
☎ 029-288-3135

俳句

初蝉や去年と違ふ木で鳴けり
鯉淵 寿美恵
湖風やコスモスの丘颯爽と
綿引 英子
文字摺草ひとつ気付けば二つ三つ
中野 千賀子
文字摺草郵便受けの真新し
今瀬 多代美
青田波過疎の村人潤せり
仲田 まちゑ
太陽は真上にありて乗咲けり
森 静江

名水の村一つ消え夏の果て
飯村 昭子
一限目はじまる母校桜花
竹内 幸子
老鶯や止みて又降る山の雨
瀬谷 博子
嬉々として胸かがやかず夏燕
田口 勝元
デイの午後車移動の菖蒲園
岩下 金司
遠き日の艦砲射撃合歡の花
寺門 孝子

川柳

母ちゃんはデザインよりも先ずサイズ
富田 多蔵
記憶ない問われたときの迷トーク
車田 綾子
蛙君早く逃げてよ「刃」がいくぞ
飯村 孝一



文芸しろさと

短歌

ふるさとの春の海辺にはるか来て
寄せてはかえず波を見てある
大森 久子
今日といふ日を賜ひたり大切に
生きむと朝のエプロン掛くる
渡辺 千紗子
日立市に学生までを住み居しが
戦災にて今はこの地に住まふ
所 美恵子
トランプとキムと首脳の握手する
を平和願いてテレビ見るわれは
山形 式妙
返納べき高齢者なれど不自由と思
へば運転免許証更新済ます
杉山 みちこ

まだ実感なけれど息子は「じいじ」
になると笑顔でわれに告げたり
枝 不美
夕ぐれは我が立つ庭をあかく
染め山鳩なきてネムの花咲く
島 愛子
いじわるな梅雨前線戻り来
て年に一度の七夕無情
信田 育子
泥水を被りし家具のゴミの山
に思い馳せつつ資源ゴミ出す
萩谷 登喜子
雲海の広がる朝に目覚めた
り陽光まぶしき山上の宿
富田 佐智子
螢狩り遠方からも集い来て
小さな山里今宵賑わう
藪部 光子

喉自慢一緒に歌い手をたたき
健康維持に共に楽しむ
富田 欽子

